

第37回

宮田三郎木版画展

- 風景か…花か… -



○会期 令和8年3月13日(金)～4月5日(日)
午前9時から午後6時まで (月曜日休館)

○会場 佐久穂町生涯学習館
「花の郷・茂来館」イベントギャラリー

○ギャラリー・トーク

3月14日(土)午後2時からメリヤホールにて、茂来館学芸員によるギャラリー・トークを開催します。当日は、先着50名様に宮田三郎画伯の絵葉書をプレゼント事前申し込みは不要です。

水と緑のうるおい 人の営みが奏でる未来のふるさと
佐 久 穂 町

入場
無料

木版画家 宮田三郎

宮田三郎は、長野県北安曇郡美麻村に生まれた。教員を経て1950年頃から創作活動を始める。日本各地を旅行して、風景のスケッチ画を描き続けた。1960年代後半から、日本各地の風景スケッチや水彩画をもとにして、試行錯誤しつつ、宮田流の版画の制作が始まる。1980年代頃から円熟味を増すとともに多くの木版画作品が創作された。全国を回って個展を開催し、彼の作品は多くの人の目に触れることとなり、魅入られた人に購入された。

スケッチ旅行をする中で、佐久地方の山河の風景に魅せられた宮田画伯は、度々佐久の地を訪れるようになり、構図を練り、スケッチを重ね、版画を創作した。特に佐久穂町では個展や版画教室を開催するなど意欲的に活動し、その功績から、2006年に「佐久穂町名譽町民」として表彰を受けた。その7年後、2013年に89歳で逝去し、第二の故郷として愛した佐久穂町に永眠している。

宮田三郎画伯自身と、彼の甥宮田篤氏により、約2,200点の木版画と、総数2万点をこえる版木、スケッチ画、水彩スケッチ原画、ポスターカラー着色版画原画、油彩画、制作資料が佐久穂町に寄贈された。画伯の作品は、佐久穂町生涯学習館「花の郷・茂来館」にて常設展示しているほか、年に1回の大規模展を開催している。細密な水彩原画から、色を減じ、線を減じ、極限まで浄化された画伯の風景版画のファンはいまだ多く、大規模展には全国から人が集まる。画伯が眠る佐久穂町大日向にある龍興寺の墓地を訪れるファンも少なくない。

宮田三郎 年表

1924年5月15日	長野県北安曇郡美麻村(現大町市)に生まれる。
1945年～1947年	長野師範学校(現信州大学)卒業。 教師となるが、病気のため退職する。
1950年～1960年	日本各地を回り、創作活動を開始する。 「一水会」「日水会」「日版協」「日展」に作品を出品する。
1957年～1967年	版画教材「エッチングボード・カラーボード」を考案し、世界美術協会会議に紹介される。東京版画研究所を創設するとともに、全国の小中学校の美術指導者に版画講習を行い、教育版画の基をつくり、普及に貢献する。
1959年～1967年	病気と火災により、創作活動を休止する。
1967年～1968年	染色版画「九州編」、木版画「京都編」を創作。
1970年～1984年	日本各地を巡り、主要風景を版画にした木版画、総数425景を発表。
1970年～	三越など全国の百貨店などで、400回近く個展を開く。
1984年	紺綏褒章を受章。
1986年～1987年	「祇園の舞妓」前・後編(三十一景)を発表する。
1987年	自選句集『仏 仏』を発刊する。
1988年～2001年	「創作日本の四季」「野の花山の花(前・後編)」「日本の風景 水景」「雲のある風景」などを発表。
1991年・1993年	自選句集『朝顔日記』、『ときどき』を発刊する。
1999年	版画発表三十周年記念展を開催する。
2006年9月	佐久穂町での版画教育普及、個展開催、作品の寄贈などの功績により、「佐久穂町名譽町民」となる。
2013年11月20日	逝去(享年89歳)。 佐久穂町大日向の龍興寺の墓で永眠する。